

1 テーマ名

肉用牛現場におけるGAPの取組に向けた仕組みづくりの検討

2 目的

肉用牛現場における食品安全, 労働安全, 環境保全の考え方の底上げを図るために, 経営体ごとに有効かつ取り組みやすい項目を整理し, 実際にチャレンジしやすい仕組み作りを検討し, 現場での推進につなげる。

3 調査研究の内容

- ・肉用牛におけるGAP推進の現状の把握
- ・GAP基準書の取り組みやすい項目と効果の整理
- ・現場課題をGAP手法で解決する方法についての検討
- ・GAP基準書の整理
- ・GAPの普及推進に向けたまとめ

4 成果

(1) 肉用牛経営体におけるGAP推進状況の把握と取り組みやすい項目の整理

肉用牛経営体は, 販売先からGAP認証の取得を求められることは少なく, 生産物の販売面での取得メリットが少ないことから, 販売面以外のメリットを調査し, とりまとめた。(表1)

表1 GAPの取組による販売面以外のメリット

項目	メリット
経営管理	・ 運営方針の見える化による従業員の意識改革 ・ 部門別責任者の明確化による自覚と責任感
計画及び実績評価	・ 生産計画と実績の記録により不良在庫の削減
生産工程	・ 工程の明確化による作業の改善 ・ 問題が起きた時の原因究明が可能 (危害要因リスク管理)
飼養管理 (アニマルウェルフェア)	・ チェックリストにより快適性に配慮した飼養管理の改善 ・ 家畜の観察や記録, 適正管理により生産性の向上
衛生管理	・ 伝染病が発生した場合の適切な対応 (ルールの明確化) ・ 手洗い設備やトイレの確保など職場環境の改善
労働安全	・ ヒヤリハットによるリスク管理で農作業事故の減少 ・ 事故発生時の正しい対応 (手順が明確)

(2) 現場課題をGAP手法で解決する方法の検討とGAP基準書の整理

肉用牛経営体がGAPに取り組みやすいようGAP基準書の内容をかみ砕いた簡易的な基準書 (簡易版) を作成した。(表2) また, 牧場内それぞれの場所で管理項目や記録等がわかるよう, 場内のモノ・ヒトの管理マップを作成した。(図1)

表2 GAP基準書（簡易版）※未完成のため、一部掲載

GAP項目の内容について(案)

※頻度のマークについて ○:文書, ◎:文書+年1以上実施 ●記録付け

管理点	頻度	具体的内容	帳簿類の例示	関連文書・法令	メリット
1. 農場管理の見える化	1. 適用範囲	○ 農場基本情報を書く	基本情報	・経営改善計画書、定期報告書 (飼養衛生管理基準)	
	2. 施設等の地図	○ 施設の周辺地図を書く	農場周辺図	定期報告書(飼養衛生管理基準)の農場見取り図	公的機関や金融公庫、求人の際に農場概要を容易に説明できる
	2. 施設のレイアウト	○ 施設のレイアウト(見取り図)を書く	施設見取り図	上記をさらに詳しく	
	3. 農場管理の仕組み文書化	○ 農場管理の仕組み(どのように管理点を守っていくか)・手順を文書にする			
2. 経営者の責任	1. 責任および権限	○ 下記の責任者を確認できる組織図を書き、担当者を明確にし、牧場内に周知する ・経営者 ・農場責任者(農場長) ・出荷牛や生乳 ・飼料生産管理 ・飼養管理(衛生、AW、医薬品・注射針の管理) ・廃棄物等、環境問題(死体処理、堆肥など、医薬品処理、苦情対応) ・労働安全・労務管理	組織図 		牧場内で誰に何を相談すればよいか分かりやすい
	2. 方針・目的	○ 方針・目的を文書化し、牧場内に周知する ・方針等に盛り込み内容 家畜衛生、食品安全、労働安全、人権・福祉、環境保全、AWの遵守、農場管理の継続的改善	牧場理念		
	3. 自己点検の実施	◎ JGAPの自己点検を年1回以上行い記録を残す 点検は、取得農場責任者かJGAP指導員とともに行う 点検結果で、不適合項目の改善をし、記録を残す	点検記録 		経営改善を促すことができる
	4. 経営者による見直し	◎ 自己点検の結果を把握し、経営改善を各責任者へ指示する、または記録を残す	経営者の見直し記録		
	5. 知的財産の保護	○ 新たな技術の特許やブランド化した商品の商標登録を行う 家畜の個体登録をする	繁殖牛高等登録書 子牛登録書		

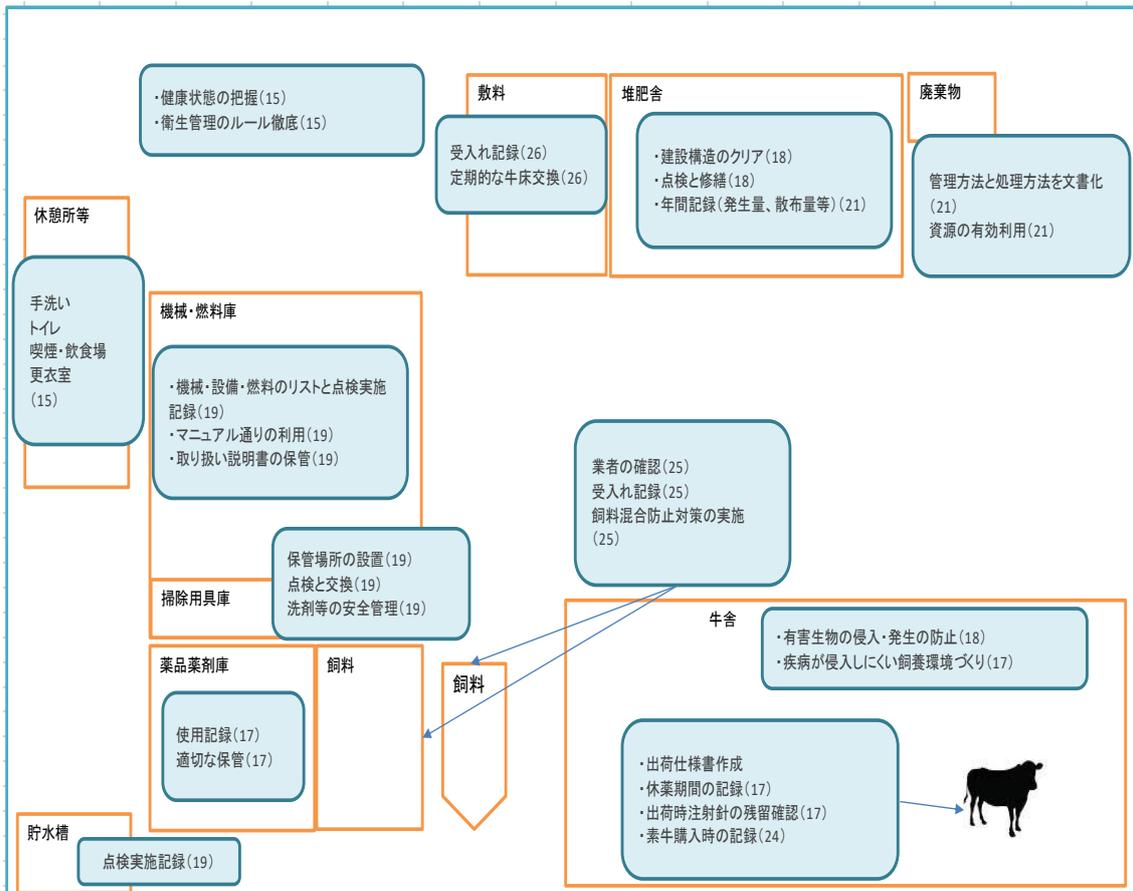


図1 牧場内 モノ・ヒトの管理マップ

5 普及指導活動における活用方法

本調査研究で作成したGAP基準書(簡易版)と牧場管理マップの手法の活用やGAPを意識した普及活動をすることにより、少しずつGAPの考え方を経営体に浸透させる。